



東京油問屋市場 第124回起業祭を開催

と き 令和6年3月25日(月) 15:30~18:45
ところ ロイヤルパークホテル(東京・中央区)

東京油問屋市場では第124回起業祭を開催し、来賓、賛助会員、営業人等82名の参加で盛会となった。

第1部『式典』では、島田豪理事長が「本日第124回、開所364年の起業祭を迎えるにあたり、その歴史を回顧し、油脂業界の発展に寄与された先輩方の業績と努力を讃え、想いを新たにして時代の変化に対処する決意を固め、今後の発展を期したい、とお願いしております」と式辞を朗読。続いて喜田正道情報委員長が油メを行い、その後宇田川公喜副理事長が式辞の解説を行った。「東京油問屋市場は明治34年3月25日に創立。この時期に大豆の搾油が始まっている。油の情勢が大きく変化し、新しい油脂原料として大豆が出てきて、手工業的な搾油から近代的な搾油へと変換があったことから油市場が組織された」と東京油問屋市場の歴史を述べた。

第2部『講演会』では、北里大学北里研究所病院副院長・糖尿病センター長/医学博士の山田悟先生が「科学的根拠に基づく最新の栄養学～油脂こそはもっとも安全な栄養素～」と題し、油脂摂取の有用性などについて講演された。

第3部『懇親パーティー』では、始めに島田理事長が「山田先生の講演では、私たち油業界にとって大変力強いメッセージで、油をどんどん摂って良いというお話をいただいた。ここにお集まりの各メーカー様は色々と素材の味を生かす油を開発されている。私たち油問屋としては、山田先生のメッセージとともに、良き油を摂取することをお手伝いをできれば幸いと思う」と挨拶した。

続いて一般社団法人日本植物油協会の新妻一彦会長(昭和産業㈱会長)より「東京油問屋市場の



日油協新妻会長 御挨拶

皆さまの団結力、結束力、そして植物油に対する愛情、熱ををひしひしと感じている。植物油の市場拡大、価値向上にご尽力いただいていることに心から感謝を申し上げたい。皆さまと我々メーカーが一体となって、日本の豊かな食生活を共に支えるとともに、健康維持に欠かせない油脂の価値を共に高めてきたのではないかと考えている。東京油問屋市場が長きにわたって培ってきた伝統と歴史、これが末永く継承され



島田理事長 式辞朗読



宇田川副理事長 式辞解説



山田先生 講演



全油販連館野会長 乾杯

ることを祈念申し上げる」と御挨拶をいただいた。

その後、乾杯音頭を全油販連館野洋一郎会長が行い「全油販連は戦後からであるが、東京油問屋市場は明治、その元をたどれば江戸時代からの歴史がある。この歴史というものを私たちがどのように繋いでいくのか。守るべきものは守り、変えるべきは変えていく、ということが肝要なことと感じている。この数年で商品のあり方、油脂の供給のあり方が大きく変化している。私たち油問屋としても、しっかりと新しい価値を創り出していけるようがんばっていききたい」と述べ杯を挙げ、懇親の場に移った。

乾杯後の団らんの中、サプライズイベントとして、突然場内が暗くなり木遣りの掛け声とともに半纏を着た情報委員が入場。東京油問屋市場営業人が油屋としての誇りを背にした半纏を披露した。これは令和2年の第120回起業祭の記念事業として発案したものだがコロナ禍であったため、それから四年を経ての実現となった。

「両襟に『東京油問屋市場』、襟裏には営業人の『屋号』、背中には『油』の文字を江戸文字で入れ、油の文字の下には油滴と油波紋を描いた。これは、油を最後の一滴まで丁寧に販売し、我々東京油問屋市場営業人としての自覚と団結力、そして東京油問屋市場の存在を表すもの。今後は市場の行事開催時を中心に着用していく」と、田口企画委員長より述べられた。

中メは穴水健治副理事長が務め、半纏を身にまとった営業人一同が前方に集合して油メを行い起業祭を締め括った。



情報委員による半纏のお披露目



東京油問屋市場営業人一同による油メ

(写真提供 油業報知新聞社)